

保育園での食育の現状と考察

浅野美奈 吉田詩歩
(岡山県立大学 保健福祉学部子ども学科 2年生)

研究の背景と目的

保育所保育指針に「子どもが生活と遊びの中で、意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみあう子供に成長していくことを期待するものであること。」とあり、実際に保育所でどのような取り組みがされているか気になった。

本研究では実際に行われている食育の取り組みを知り、報告、考察することを目的とする。

方法

本調査では妹尾保育園、福田保育園、第2福田保育園の3園を対象に、実態調査を行う。質問項目と実際の園の様子を見学しながら印象に残った食育の内容を取り上げる。

事前に送っていた質問事項は以下の通りである。

- 1, 食育実施頻度・時間帯
- 2, 食育実施内容
- 3, 食育担当者は保育士か栄養士か
- 4, 食育指導で難しいこと
- 5, 食育に関する指導で支援してほしいこと

結果

1、食育実施頻度・時間帯

毎日の食事、シーズン・学期・イベントごと、栄養士実習の時

2、食育実施内容

夏野菜の栽培、餅つき、かき氷づくり、ビュッフェ形式の食事、土鍋で新米を炊く、毎月の離乳食調査票、食育通信の掲示、給食参観日

3、食育担当者は保育士か栄養士か

どちらも。栄養士も一緒に給食を食べる

4、食育指導で難しいこと

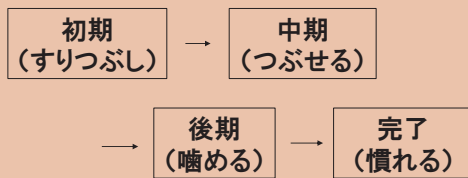
ない

5、食育に関する指導で支援してほしいこと

畑の管理をしてくれる人

◎4月からの食事の様子

◎離乳食の進み具合



◎保護者のお悩み、アンケートに回答

ニコニコ
アイコンタクト
コミュニケーション

◎食事の際に 大事なこと

うれしい
たくさん食べたね
おいしい

◎五感をフルに使うことが大事

◎楽しい手づかみ食べ

給食参観日に0歳児のクラスで掲示されたポスター

考察

本調査では食育に力を入れた私立園で調査を行ったため、食育指導に慣れており難しいことが特に上げられなかったり、食育内容を尋ねた際、日常的なことよりも特色ある取り組みを回答されたのではと考える。食前後の挨拶などの日常的な取り組みは当たり前と考え、実施していても意識してやっていないためではないかと思う。

ほかの私立園や公立園で同様の調査を行うと、食育指導で難しいことが挙げられたり、食育内容について、食前後のあいさつや食器配置などの日常的な取り組みも多くあげられるのではと考える。

子どもの食育のためには、保護者の食育支援も欠かせないことが、給食参観日、離乳食調査票などの保護者支援からわかった。

まとめ

- ・園で行われている食育の取り組みでは、子どもだけを対象にしているのではなく、保護者も対象にされていた。
- ・今後の課題として、公立園と私立園での食育の取り組みに差があるのか調査したい。